

音楽C (合奏又は合唱) 渡邊 均	履修年次	クラス	単位	学期
	2-4/3-4		1	前期
備考：				

【講義の概要】

【授業の到達目標及びテーマ】

音楽科教育の歌唱指導における教材には斉唱曲（単声）と合唱曲（2声，3声）があり、小学校の中学年以上になると合唱の形が多用されている。したがって指導者は、基礎的なアンサンブル技法を習得しておくことが必要である。総合的にみて発声法や唱法の基本、アンサンブル楽曲の解釈、指揮の基本等、実践を通して表現力や指導法の習得と向上が目的である。

【授業の概要】

音楽Cは可能ならば器楽アンサンブルを伴う合唱の演習を行なう。個別の演奏の技術的な面にとどまらず、実技の過程で、アンサンブルの方法を重視した学習を行う。可能ならば鍵盤楽器、弦楽器、合唱によるアンサンブルを実施したい。

実技の内容は、初歩的なアンサンブルとして先ず2声（ソプラノ・アルトあるいはテノール・バス）の練習曲を用い、発声と読譜の基礎訓練を行ないながら、ポリフォニー系楽曲を用いアンサンブルの基本を習得する。はじめ2～3声の楽曲を用いるが、演奏の基本が定まるころに並行して、なじみの深い歌曲の編曲作品やゴスペルソングなど、ア・カベラ（無伴奏）の作品を中心に声楽アンサンブルの醍醐味を感じられる楽曲に取り組みたい。また、参加者自身による演奏を録音し、分析・批評しあいながら指導法について研究していく活動にも取り組みたいと思っている。

【準備学習等についての具体的な指示】

講義中の指示やWEBシラバスの「講義計画」で、毎回の内容および指示を各自で確認のうえ準備をして講義に臨むこと。

【授業計画（各回ごとの授業内容）】

1. 履修者の基礎技能・実技特性の確認（合唱／器楽パートの確定）
2. 今期の取り組み課題の決定／スケジュールの確定
- 3～4. 基礎練習楽曲の習熟
- 5～6. パート編成と基礎練習／視唱練習
- 7～8. パートにおける協同練習
- 9～13. 合唱・合奏練習
14. コンサート
15. 反省会

【テキスト】

授業で配布するアンサンブル楽曲（履修曲例：ディズニー名曲アンサンブル曲集、日本合唱組曲、ゴスペル・ソング集）。録音作品もしくは開催されるコンサートに参加するための楽曲練習に取り組む。

【参考書等】

特に無し。

【成績評価の方法】

コンサートにおける実技を通して履修曲の実技査定（60点）と授業への取り組み（40点）それに加点／減点要素を加え総合的に評価する。メンバーと共同で取り組む実技科目であり、練習への参加状況と準備が最も重要となる。

【履修上の注意】

合唱・合奏という表現活動の性質上、発表の場を経験することを重視している。したがって、発表の機会が用意された場合には、授業時間外でも協同で行われる最小限のリハーサル・本番は、講義の振替として実施するので必ず参加すること。